

資料

オランダにおける新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の感染拡大とその対応

タナカ ヒロカズ
田中 宏和*

はじめに 2019年末に中華人民共和国湖北省武漢市で初報告された新型コロナウイルス感染症（COVID-19）はわずか数か月で世界的に拡大し、欧州でも多くの感染者を出した。本稿はオランダにおける2020年7月末までの感染拡大とその対応についてまとめ、新興感染症による公衆衛生の海外での体験を一例として共有することを目的とした。

疫学 2020年2月27日に初めての新型コロナウイルス感染症患者が確認されてから感染が急拡大し、第一波は新規感染者・死亡者ともに4月10日ごろにピーク（日別新規感染者1,395人、日本の人口換算で約10,000人）を迎えた。その後、感染拡大は収束したが5月31日時点で感染者46,422人、入院患者11,735人、死亡者5,956人が累計で報告された。死亡のほとんどが60歳以上で発生し、男性は80–84歳で、女性は85–89歳でそれぞれピークとなっていた。地理的な広がりとしてはアムステルダム・ロッテルダムといった都市圏での感染者は相対的に少なく、南部の北ブラバント州・リンブルフ州で多かった。

オランダ政府の対応 オランダ政府の対策の特徴は、最初の感染者の確認からわずか2週間で全国的な都市封鎖に追い込まれたこと、比較的緩やかな都市封鎖措置と行動制限を実施したこと、社会・経済活動の再開までに約3か月を要したことが挙げられる。2020年3月12日から段階的に全国的な対策を施行し、3月下旬にルッテ首相がインテリジェント・ロックダウン（Intelligent Lockdown）と呼ぶオランダ式の新型コロナウイルス感染防止対策が形成された。5月中旬以降、子どもに対する規制が緩和されたが対策措置の多くは6月中旬まで続き、段階的な緩和をもって社会・経済活動が再開、7月1日にほぼすべての規制が解除された。それ以降、在宅勤務の推奨、1.5メートルの社会的距離を取ることや公共交通機関でのマスク着用義務化など新しい日常への模索が続いている。

おわりに オランダにおける感染拡大防止策は多様性と寛容に裏打ちされたオランダの国民性を体現したものだったが、感染者数および死亡者数は日本より深刻な状況であった。健康危機管理に関する他国の政策の評価には公衆衛生や医療資源の評価とともに、その背景にある社会の特徴を考慮することが重要である。

Key words : 新型コロナウイルス感染症, COVID-19, オランダ, ロックダウン, インテリジェント・ロックダウン, SARS-CoV-2

日本公衆衛生雑誌 2021; 68(4): 276–285. doi:10.11236/jph.20–094

I はじめに

2019年末に中華人民共和国湖北省武漢市で初報告された新型コロナウイルス感染症（COVID-19:

coronavirus disease 2019）はわずか数か月で世界的に流行が拡大し、2020年3月11日に世界保健機関（World Health Organization, WHO）がパンデミックを宣言した¹⁾。欧州各国での感染拡大に伴ってオランダでも2月末に最初の感染者が確認された後、感染者の増加が続き3月中旬から経済・行動制限や国境管理強化措置などが施行された。筆者は2019年4月から日本学術振興会海外特別研究員（JSPS Overseas Research Fellow）としてオランダのロッテ

* エラスムス大学医療センター公衆衛生学分野
責任著者連絡先: Erasmus MC, P.O. Box 2040, 3000
CA Rotterdam, The Netherlands
Department of Public Health, Erasmus University
Medical Center 田中宏和

ルダムにあるエラスムス大学医療センター (Erasmus University Medical Center) で社会疫学の研究を行っており²⁾, これらの対策により所属先の研究室への立ち入りが禁じられ在宅勤務となり, スーパーマーケットや薬局, 家電量販店など最小限の産業しか営業が行われない生活環境を経験した。また, 同時期に日本への一時帰国を計画していたため, 日本と欧州連合 (European Union, EU) 双方の渡航制限措置について海外安全情報や検疫体制を情報収集し, 感染拡大対策に関する当局の動きをリアルタイムで体感した。

オランダの新型コロナウイルス感染拡大と対策の特徴は(1) 最初の感染者の確認からわずか2週間で全国的な都市封鎖に追い込まれたこと, (2) 強い権限で国民の生活を制限することに消極的で比較的緩やかな都市封鎖措置と行動制限 (インテリジェント・ロックダウン) が実施されたこと, (3) アムステルダム・ロッテルダムといった都市圏での感染者は相対的に少なく, 南部 (ベルギー寄り) の北ブラバント州・リンブルフ州で多かったこと³⁾, (4) 第一波の収束までに約3か月を要したことが挙げられる。本稿はオランダにおける新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) の感染拡大とその対応について時系列でまとめ, さらに日本との相違点を考察することを通じて, 新興感染症による公衆衛生および健康危機管理の海外での体験を一例として共有することを目的とした。なお本稿は2020年7月末までの情報をもとに執筆している。

II 感染拡大前と最初の感染者の確認

2020年1月下旬以降, 中華人民共和国湖北省武漢市で都市封鎖などの厳しい感染拡大防止策が実施されたことは報じられていたが, オランダでは国内における感染者の発生まで新型コロナウイルス感染症への関心はそれほど高くなかった。在オランダ日本国大使館は1月24日に「新型コロナウイルスについて」との注意喚起を在留邦人向けに発出し, オランダにおいて新型コロナウイルス感染症の発生への警戒と手洗い, うがい等を (オランダ政府に先駆けて) 呼びかけていた⁴⁾。

2月に入ると感染者クラスターが発生し横浜に入港したクルーズ船「ダイヤモンド・プリンセス号」, 日本に入港を拒否されカンボジアへ向かったオランダ船籍のクルーズ船「ウエステルダム号」のニュースはオランダ国内でも高い関心をもって報じられていた。その一方で, ベルギー, ドイツ, フランスなど周辺国で2月上旬に感染者が確認されていたもののオランダ国内では旅行者も含めて感染者は確認さ

れておらず, オランダ国立公衆衛生環境研究所 (Het Rijksinstituut voor Volksgezondheid en Milieu, RIVM) などの保健当局が感染症情報として提供するのみで社会的な脅威とはみなされていなかった。したがって2月中に予定されていたコンサート, スポーツイベント (サッカー国内リーグ・国際テニス大会・国際フィギュアスケート大会など) やカーニバル (謝肉祭) は制限なく予定通り開催され多くの観衆を集めていた。とくに2月下旬に行われたカーニバルは伝統的にオランダ南東部で盛んであり, 感染が広がった地域 (後述) と一致することと, 感染拡大初期の感染者がカーニバルに参加していたことなどから感染拡大の一因となったとの指摘がある⁵⁾。

2月27日木曜日, 南部の北ブラバント州ティルブルグでオランダ国内最初の感染者 (イタリアのロンバルディア州を訪れていた男性) が確認された。また, 翌日にもロンバルディア州を訪れていた女性の感染が確認されている (1例目の男性とは接触なし)。オランダの主要メディアは感染者の入院先の病院の玄関の写真を掲載し “Corona is heir” (コロナ患者はここにいる) との見出しを掲げるなどセンセーショナルに報道した。この時点 (2月末時点) では, オランダは入国制限措置をとっていなかったものの, イタリア北部, 中国, 韓国, シンガポール, イランからの渡航者で風邪などの症状がある場合は自宅待機を勧めるなど特定のハイリスク地域からの感染の伝播に警戒していた。最初の感染者の確認からの感染拡大とその対応の経過を表1に示す。

在オランダ日本国大使館は2月28日に「オランダで初めての新型コロナウイルス感染者の確認」との情報提供を邦人向けに発出し, その時点において日本からの渡航者に対する入国拒否, 隔離措置等を行われていないことを周知した (写真1)⁶⁾。その後も在オランダ日本国大使館はオランダ政府の対応や入国制限措置, 日本への帰国のためのフライト情報など邦人保護に関する情報を逐次発出していた。

III 感染の拡大

オランダ国内初の感染確認から1週間 (2020年3月6日時点) で感染者数は100人超となり死亡者1人が確認された。なお, オランダの人口は約1,700万人 (日本の7分の1程度) のため⁷⁾, オランダでの感染者数を7倍した値が日本における感染者数規模の概算となる。同時期の日本の感染者数は400–500人程度 (死亡者数6–9人) であり⁸⁾, 人口比で換算するとオランダにおける感染者数はわずか1週間で日本の水準を超えた計算となる。3月9日にはルッテ首相 (Mark Rutte: 2010年10月より首相を

表1 オランダにおける新型コロナウイルス感染症の感染拡大とその対応の経過*

2020年	新型コロナウイルス感染症の感染拡大状況とその対応
2月27日(木)	・南部の北ブラバント州でオランダ国内最初の感染者を確認
3月6日(金)	・感染者数100人以上, 死亡者1人となる
3月9日(月)	・一般的な衛生対策呼びかけと地域限定(北ブラバント州)の対策措置発表
3月12日(木)	・①全国的な感染拡大防止対策措置を初めて発表(在宅勤務の推奨, 100人以上の会合禁止, 公共施設の閉鎖, スポーツ大会の禁止など)
3月15日(日)	・②追加対策措置を発表(可能な限りお互いに1.5メートルの社会的距離をとるよう要請, 学校の休校, レストランなどの営業禁止など)
	・感染者数1,000人以上, 死亡者数24人となる
3月16日(月)	・ルッテ首相が国民に向けてテレビ演説(首相として47年ぶり)
3月24日(火)	・③追加対策措置を発表(あらゆる場所において人が集まること禁止, 身体的接触を必要とするすべての職務の営業禁止など)
	・ルッテ首相がオランダにおける一連の感染拡大対策を「インテリジェント・ロックダウン」と命名**
3月30日(月)	・患者数10,000人以上, 死亡者数1,000人以上となる
4月10日(金)	・新規感染者数・死亡者数ともにピークに達する(図1)
4月21日(火)	・感染拡大防止対策措置の延長および緩和について見通しを発表
5月11日(月)	・小学校が再開, 身体的接触を必要とするすべての職務の営業が解禁
5月31日(日)	・感染者数46,422人, 死亡者数5,956人となる
	・新規感染者数が低い水準で横ばいの状態に(第一波の収束, 図1)
6月1日(月)	・公共交通機関で乗客に非医療用マスクの着用を義務化
	・感染が疑われる症状がある場合, 保健所で検査を受けることが可能に
	・中・高等学校の再開や映画館, レストランおよび文化施設の再開が許可, 制限付きで多くの業種について段階的に規制緩和が始まる
7月1日(水)	・公共交通機関利用の制限が緩和, 対策措置のほぼすべての制限が解除
7月10日(金)	・新規感染者数が増加傾向に転じる(図1)
7月30日(木)	・オランダ国内での一律のマスク着用義務付けの見送りを発表

* 2020年7月末までの経過を示した

** オランダにおいては①-③の新型コロナウイルス感染症対策措置が段階的に施行され, ③の段階になった時点で最も制限が厳しい状態となったが欧州の他国で見られた完全なロックダウンを避けたため, インテリジェント・ロックダウン(一定のルールは設けるが国民の自主性を尊重し個人の判断に委ねること)と呼ばれた

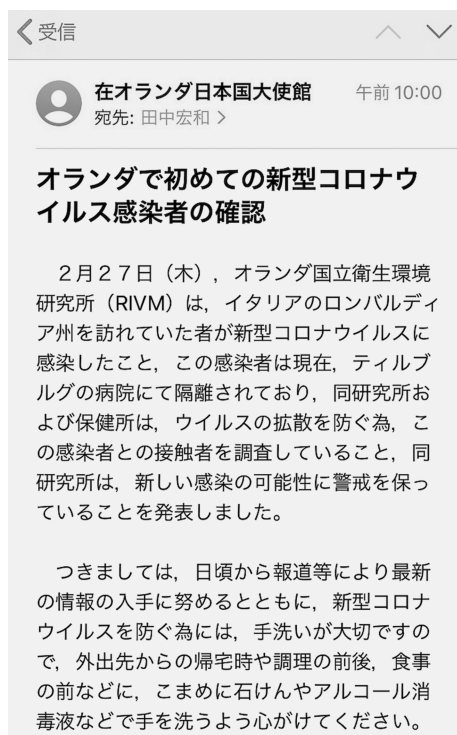
務め長期政権となっている)が「手洗い, うがい, 咳エチケットなど一般的な衛生対策を励行するとともに, 握手は控えるよう要請する」と国民に呼びかけたが, この記者会見の終わりに隣のRIVM所長とうっかり握手する様子が国際ニュースとして配信された⁹⁾。この時点では感染拡大が顕著だった南部の北ブラバント州の住民に向け風邪, せき, 発熱等の症状がある場合は社会的接触を避け学校や職場等の人が集まる場所にはいかないよう要請が行われており, それ以外の地域の住民にも注意喚起が行われていたものの地域を限定した措置(週末のサッカー国内リーグの試合の中止など)がとられたのみであった。同時期にイタリア北部を中心に実施されていた都市封鎖措置(ロックダウン)がイタリア全土に拡大され経済活動が禁止されるなど欧州各国においてもロックダウンが現実味を帯びてきた。3月11日に感染者数500人超となり, 死亡者数5人と報告

された。

Ⅳ オランダ政府の対応とインテリジェント・ロックダウン

オランダにおいて全国的な新型コロナウイルス感染拡大防止対策が発表されたのは2020年3月12日木曜日であった。オランダ政府は国民に在宅勤務の推奨, 100人以上の会合を禁じること, 博物館・コンサートホール・劇場・スポーツクラブ等の公共施設の閉鎖, スポーツ大会の禁止を発表した。したがって, 初めての感染者が報告されてからわずか2週間で, そして特定の地域に限定した対策を発表してからわずか数日のうちにオランダ政府はより具体的な対策を全国に導入せざるえない状況となった。これ以降, オランダ政府は段階的に対策や規制の範囲を広げていった。この時点(3月12日)ではレストラン等の飲食店は営業が可能であった。大学の対面授

写真1 オランダでの初めての新型コロナウイルス感染症患者の発生を知らせる在オランダ日本国大使館の邦人向け情報提供メール
(2020年2月28日撮影)



業は中止される代わりにオンラインで教育を提供することとされ、キャンパスは原則閉鎖されることとなったが、小中高の学校は感染のリスクが低いとして閉鎖せず、通学できると通知された。ただし、報道によれば翌日の3月13日金曜日には小学校を欠席する児童が多く、学校によっては半分程度出席率で保護者が休ませるケースが相次いだ。休日の3月14日土曜日には全国のスーパーマーケットで買い溜めが発生し、パスタなどの食品やトイレトペーパーが棚から消えた映像が報じられた。ただし、ベルギーとの国境は管理が厳しくなるなど物流は滞っていたものの、流通網は過度に混乱せずスーパーマーケットの品薄状態は1週間足らずで解消した。この週末はバーなどの飲食店は営業を続けており、ロッテルダム市内のバーも普段通り賑わっていた。

3月15日日曜日、感染者数1,000人超、死亡者数24人となった。この日の夕方、オランダ政府は学校の休校、レストラン・スポーツ施設・サウナ・セックスクラブおよびコーヒーショップ（大麻が吸える店）などの営業を4月6日まで禁じる追加措置を発表した。さらにオランダ国内にいるすべての人々に対し、買物等の際も含め可能な限りお互いに1.5メートルの間隔をあけるよう要請を行った（写真2）。これにより小中高の学校は科学的エビデンスに

写真2 他者と1.5メートルの距離をとることを促す表示（2020年3月27日撮影、アムステルダム・スキポール空港）



よりリスクが低いので閉鎖しないとした方針をわずか3日で撤回し全国で休校措置となった。これに関して、医療・警察・公共交通機関および消防等に従事する親の子どもは、親の勤務継続を可能にするため学校および託児所での受け入れが無料で手配されると発表された。

3月16日月曜日、ルッテ首相がテレビを通じて国民に向けて「ウイルスを最大限にコントロールし、感染者数のピークを抑えて長期間に引き延ばすことで大多数の人を軽症に抑え、医療提供体制を維持するシナリオを目指す」とスピーチした¹⁰⁾。オランダの首相が国民に向けてテレビ演説を行うのは異例（1973年の石油危機以来）であり、オランダ政府の危機意識の高さを国民に伝えるものであった。翌3月17日火曜日、EUがEU外からEUおよびシェンゲン域内（シェンゲン協定に加盟しているヨーロッパ諸国間を自由に往来できる区域）への渡航禁止を決定した。これにより日本国籍者はオランダの居住許可証を所持している場合を除き、原則としてオランダおよびヨーロッパ諸国への入域が禁止されることとなった。この措置は当初は4月15日までであったが、感染の世界的な拡大により1か月ずつ延長され、日本に対する入国制限措置は7月1日に解除されるまで続いた。3月18日水曜日、オランダ政府（与党）は隣国のベルギーやフランスと比較して緩やかな対策を実施していたため、より厳しい封鎖措置を求める野党の追求を国会で受けていた。この時にブラインス医療大臣が議場で討論中に演台の前において極度の過労で卒倒し、職務を遂行できる状態ではないとして翌日辞任した¹¹⁾。その週末の3月21日土曜日、この日は天気が良く大量の人が海岸や公園に繰り出しいわゆる密の状態が各地で見られたため問題視され、オランダ政府は慌てて3人以上が固まって行動することを禁じるなどの罰則規定（個人に対しては最大400ユーロの罰金）を強化した。

3月23日月曜日、日本政府はすでに発出されてい

た欧州各国に対する感染症危険情報のレベルを引き上げた。これによりオランダは「感染症危険情報レベル3：渡航は止めてください（渡航中止勧告）」に引き上げられた。したがって、日本とオランダを含む欧州各国との往来については3月下旬時点で双方で厳しい制限をかけることになった。

3月24日火曜日、あらゆる場所において人が集まることを5月31日まで禁止するとする追加対策措置を発表した。この時点で身体的接触を必要とするすべての職務（マッサージや理容・美容室など）の営業が禁止となった。オランダ政府が3月12日から2週間の間に段階的に引き上げた制限はこれらの対策導入で最も厳しい段階になり、ルッテ首相がインテリジェント・ロックダウン（Intelligent Lockdown：一定のルールは設けるが国民の自主性を尊重し個人の判断に委ねること）と呼ぶオランダの新型コロナウイルス感染防止対策が形成された。これは換言すると完全なロックダウンを避ける形となったが、フランスやイタリアなどと異なり強い権限で国民・住人の外出等を制限することに消極的だったオランダ政府からすれば、結果的に移動の制限（不要不急の公共の交通機関利用の自粛要請など）や経済活動の停止（レストラン等サービス業の営業停止など）までに踏み込まざるえない状態であった。

3月30日月曜日、感染者数は10,000人を超え、死亡者数は1,000人超となった。オランダ政府は4月6日までとしていた多くの対策措置を4月28日まで延長すると発表した。

V オランダにおける新型コロナウイルス感染症の疫学

オランダにおける新型コロナウイルス感染症の流行曲線（新規感染者数および死亡者数）を図1に示す¹²⁾。2020年2月27日にオランダにおける初めての感染者が確認されて以降に感染が急拡大し、新規感染者数は4月10日にピーク（日別新規感染者1,395人、日本の人口換算では約10,000人）を迎えた。流行の開始や流行曲線の特徴は日本と異なるものの、オランダにおける第一波の新規感染者のピークのタイミングは日本の第一波のピークと一致していた⁸⁾。その後、感染拡大は収束したが5月31日時点で感染者数46,422人、入院患者数11,735人、死亡者数5,956人が累計で報告された。6月以降、新規感染者数は緩やかな減少か横ばいの傾向となった。7月中旬以降、再生産数が1.0を超え、感染拡大傾向に転じた。図2に2020年7月末までの死亡者の年齢分布を示す¹²⁾。死亡のほとんどが60歳以上で発生し、男性は80-84歳で、女性は85-89歳でそれぞれピーク（約700人）となっていた。

図3に新型コロナウイルス感染症の入院患者の地域分布（2020年5月末時点の累計）を示す³⁾。オランダ全国地図上の右下（南東部）の北ブラバント州、リンブルフ州で入院患者が多かったことがわかる。一方で人口が多い地図上の左側（西部）の北ホラント州（アムステルダム）、南ホラント州（ロッテルダム、デン・ハーグ）の都市部では入院患者数は多いが人口あたりでは相対的に少なかった。さらに、オランダ北部では感染があまり広がらなかった。ま

図1 オランダにおける新型コロナウイルス感染症の流行曲線（オランダ国立公衆衛生環境研究所の公表値より作成）

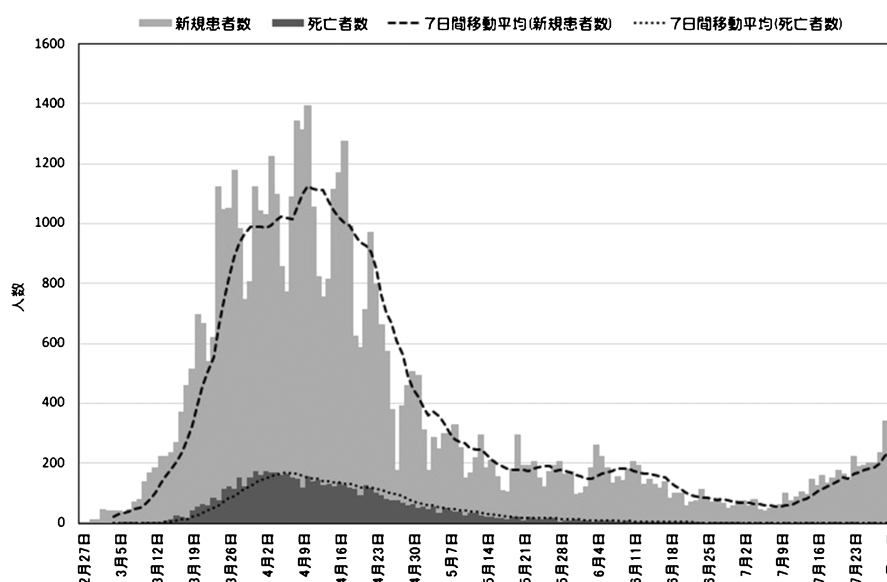


図2 オランダにおける新型コロナウイルス感染症の死亡者の年齢分布（オランダ国立公衆衛生環境研究所の公表値より作成）

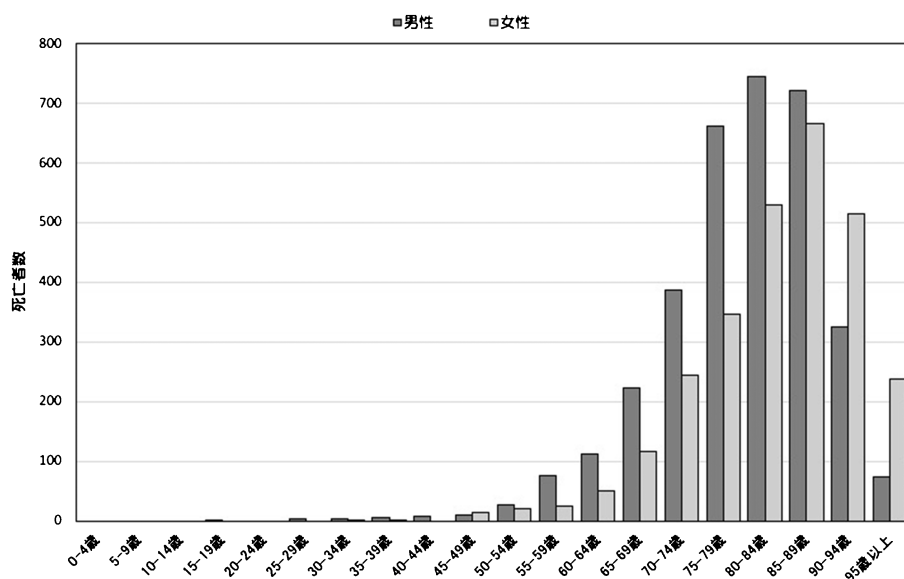
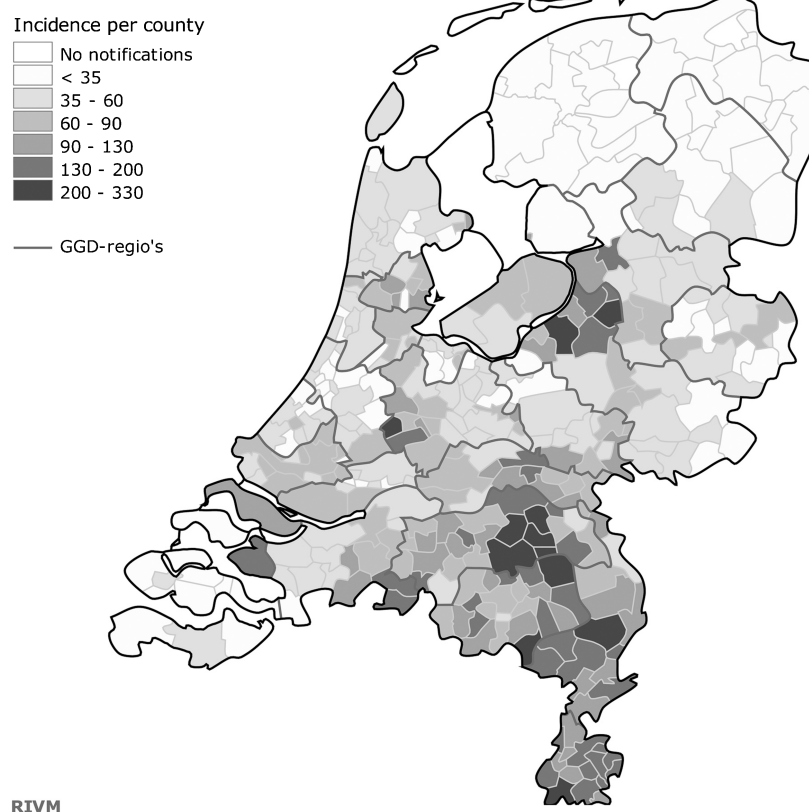


図3 オランダにおける新型コロナウイルス感染症の入院患者（人口当たり）の地域分布（出典：オランダ国立公衆衛生環境研究所ウェブサイト：<https://www.rivm.nl/en/novel-coronavirus-covid-19/current-information>.（2020年5月31日アクセス可能）

Total number of hospitalised patients with COVID-19

Per county 31 May 2020



た、オランダ南部のミンク農場で毛皮用に飼育されているミンクから従業員に新型コロナウイルスの感染が疑われるケースが報告され、動物から人への感染が認知された世界で初めてのケースである可能性が指摘されている¹³⁾。

オランダにおいて新型コロナウイルス感染症が疑われる場合、自宅待機が基本となっている。体調が悪く一般的な風邪の症状がある場合、まず自宅にて様子をみることが求められ、38℃以上の高熱があるなど症状が強くなった場合のみかかりつけ医に電話で相談する（直接クリニックを訪問しない）ことが基本的な受診の手順になっている¹²⁾。ただし、実際には日本と同じように患者の家族や感染者クラスター（約半分が家族によるクラスターである）など濃厚接触者を含め多様な経路で検査、診断に至っている。オランダ政府は5月に検査数は2021年2月頃に1日あたり最大7万件を目指し、当面は6月中に1日あたり3万件の実現を目標にすると発表しており、徐々の検査能力を増やしていた。6月以降は感染が疑われる症状がある場合、近隣の保健所（Gemeentelijke Gezondheidsdienst：GGD，市区町村レベルの保健サービス部門であり日本の保健所とほぼ同じ機能を有する）に予約することで検査を受けられることになった¹⁴⁾。7月13日から19日までの週では、88,886人が保健所の検査所で検査を受け、陽性率は1.0%だったと報告されている¹⁵⁾。また医療提供体制について、5月時点で集中治療室病床数は最大2,400床あるが、今後は1,700床を新型コロナウイルスの患者用として維持しつつ、700床はその他の患者用とするの方針を示した。

Ⅵ オランダ政府による対策措置の緩和

オランダ政府は2020年4月21日に、4月28日までとされていた各種の対策措置の延長および緩和について発表した。したがってこれ以降、規制は徐々に緩和されていく方向となった。ただし、夏にかけてのイベント・スポーツ大会の禁止が決定され、オランダ国内サッカーリーグの2019-2020年シーズンの打ち切りが決定されるなど、中・長期的に制限が続く見通しも示された。5月11日に小学校が再開（ただし、隔日登校かつ教室の半数のキャパシティのみ使用などの制限付き）、身体的接触を必要とするすべての職務（マッサージや理容・美容室など）の営業が解禁された。また、子どもを対象とするスポーツクラブなどの活動が許可された。再開された業種も予約制で営業され、可能な限り1.5メートルの社会的距離を維持できるよう対策を講じることが求められた。

6月1日以降、中・高等学校の再開や映画館、レストラン、カフェおよび文化施設（博物館、美術館、コンサートホール、劇場等）の再開が許可され、制限付きではあるものの多くの業種について規制がほぼ緩和された。また、老人ホーム等高齢者施設への訪問も制限されていたが徐々にこの規制も解かれた。なおルッテ首相の母が5月中旬に高齢者施設で亡くなったが（新型コロナウイルス感染症ではない）、この規制のためルッテ首相は母の最期に立ち会えなかったと報道された。運行本数が限られていた公共交通機関は徐々に通常ダイヤに戻りつつあったが、使用できる座席を制限され必要不可欠の場合のみの利用が求められていた。公共交通機関では多くの場合で社会的距離を取ることが難しいとして、電車・トラム・（水上）バス・地下鉄では、6月1日から13歳以上の乗客に非医療用マスクの着用を義務づけた。この違反（マスク非着用）には罰金95ユーロが設定された。なお、駅構内・停留所でのマスク着用は義務づけられていないが、1.5メートルの間隔を空けることが求められている。

6月15日以降、EUの移動規制が緩和されたことから欧州内のいくつかの国への渡航が解禁された。ただし、それぞれの国内の感染リスクと旅行者の受け入れに対する姿勢は各国で異なったため、旅行者に慎重に検討することを呼びかけた。なお、オランダは5月上旬から日本の首都圏（羽田空港・成田空港）からの渡航に対して（原則的に外国人は入国拒否であるが）入国後2週間の自己隔離を要請すると、の検疫措置を取っていたが5月下旬に解除された。

こうして3月中旬より始まった対策措置の多くは感染の第一波が下火になった6月中旬ごろまで約3か月続き、段階的な緩和をもって社会・経済活動が再開した。オランダ政府は爆発的感染増の時期は脱したものの、ウイルスをコントロールできている状況になるまでには数か月はかかり、ウイルスを根絶できるわけではないとの見通しを示し、緩和は少しずつ行うほかないと表明した。また、今後の方針の最も重要な点として感染に対して脆弱な人々を守る、医療崩壊を起こさないという2点をあげた。7月1日から公共交通機関が不要不急の移動にも利用可能となり、これ以降ほぼすべての制限が解除された。RIVMは6月末までは新規感染者・入院患者・死亡者数を毎日アップデートして公開していたが、これ以降は週1回まとめて傾向を評価・公表している（毎日の新規感染者数などは引き続きオランダ政府のウェブページで閲覧可能である）^{3,16)}。

Ⅶ 考 察

新型コロナウイルス感染症の疫学的な広がりとは本稿の執筆時点（2020年7月末）において日本よりオランダの方が事態は深刻であった。時系列を振り返るとオランダにおいての対策は徐々にその範囲を広げ、必要な場合は個々の制限に罰金などの罰則が定められる形であった。また、他国のような非常事態宣言は発令されず、人が集まることに対して罰則措置の適用となったものの、いわゆる外出禁止令などで外出自体をオランダ政府が制限することはなかった。この点で、一定のルールは設けるが国民の自主性を尊重し個人の判断に委ねるというインテリジェント・ロックダウンの特徴があった。このようなアプローチはオランダにおける既存の政策、たとえば大麻規制について一定のルールの下で最小限の大麻喫煙を認めていることと通じるものがある。なお、オランダ政府は新型コロナウイルス感染拡大防止対策として初めからインテリジェント・ロックダウンのビジョンを持っていたわけでない。インテリジェント・ロックダウンは感染拡大により段階的に強い対策を導入せざるをえなかった結果としての妥協点（国民・住人の自由を制限する施策は避けたいが、感染拡大防止のために経済活動を規制せざるえない中で方向性を示すこと）の側面があった。

いくつかのテーマについてオランダと日本の違いを下記に挙げたい。まず、マスクの着用について、オランダでは多くの欧米諸国と同様に市中でマスクを着用する習慣がなかった。したがって、新型コロナウイルス感染症が流行する前までドラッグストアなどではマスクは販売されていなかった。6月1日以降、公共交通機関で乗客に非医療用マスクの着用（オランダ政府はマスクの自作を推奨している）を義務づけたため、乗客全員がマスクを着用している（写真3）。現在ではマスクを販売する店が出てきたが、市中で習慣的にマスクをする市民はほとんど見

かけられない。アジア系の住民はマスクをしている場合が多いことをかんがみると、マスク着用に対する文化的な違いはまだ残っていると言える。オランダ政府は公共交通機関以外の公共の場での非医療者用マスク着用の推奨に対して非常に消極的な姿勢である。欧州各国でマスク着用義務化の流れがあった7月下旬に、オランダ政府は国内で一律のマスク着用義務化は見送るものの、各自治体において追加措置をとることができると発表した。

次に社会的距離について、1.5メートルの社会的距離をとることは実際に徹底されているとはいえない。たとえば、筆者が所属するエラスムス大学医療センターはオランダ最大規模の病院として、新型コロナウイルス感染症患者の受け入れ、研究とも重要な役割を担っているが7月下旬に「スタッフが1.5メートルの社会的距離を十分に取っていないとして一般患者やボランティアからの苦情が多数寄せられている」と全スタッフに対して注意喚起された。日本においては密接の状態を避けるように呼びかけられているが、生活の場面においては難しい場合もあり、適切に社会的距離を取ることを呼びかけをどのように行うかは課題である。

さらに、周辺国との往来について島国である日本と異なり、オランダは南にベルギー、東にドイツと陸で国境を接しており平時であれば往来は自由であり、車や直通電車での往来が盛んである。2020年3月中旬以降、ベルギー側が国境管理を厳しくしたため陸路の往来は制限されていた。また、運行するすべてが国際線のアムステルダム・スキポール空港もEUの渡航制限措置により多くの便が欠航となっていた。検疫体制について、筆者は6月下旬にスキポール空港にてオランダに再入国したが検温や問診を含め検疫措置は一切なかった。スキポール空港の到着ロビーまでの導線を見ても検疫を行うスペースは準備されておらず、空港検疫の実施は想定していないようであった。日本ではPCR検査を含め空港検疫を厳しく実施していたが、オランダとの差はやはり島国と陸続きの国境を持つ国の違いであると思われる。ルッテ首相が3月のテレビ演説で“Nederland is een open land en zolang er geen vaccin is, zal het coronavirus als een golf door de wereld blijven gaan en ons land niet overslaan.”（オランダは開かれた国であり、コロナウイルスはワクチンがない限り世界中に波のように広がり続け、オランダも例外ではない）と発言しており⁹⁾、こうしたオランダの国民性とルッテ首相の考え方が移動制限や検疫に反映されている側面があるかもしれない。

オランダはEUの一員であり、政策の決定には他

写真3 全員がマスクを着用している水上バスの乗客（2020年7月18日撮影、ロッテルダム市内）



国との調整や整合性についても日本とは異なる点がある。たとえば、3月中旬時点でベルギーが先行してバーなど飲食店を封鎖したがオランダでは営業していたためベルギー北部の住民（オランダ語方言のフラマン語を話す）が国境を超えてオランダで飲食し、ベルギー当局が対応を求めるなど両国の自治体は苦慮していた。また、欧州内での移動の制限が解除された後も、感染リスクや旅行者を歓迎するかはそれぞれの国で対応が異なり、自国民に対してどの国へ旅行して良いか、控えるべきか、渡航勧告の設定を慎重に行っていた（基本的には国内で夏季休暇をとることを推奨していた）。この点は、日本における都道府県間の対応の調整や整合性の難しさと似ていると言えるだろう。

本稿はオランダにおける新型コロナウイルス感染症の拡大とその対策に関してまとめたが、いわゆる「コロナ禍」においては公衆衛生上の課題とともに社会の多くの側面に対して影響があり、そのすべてを詳細に網羅できたわけではない。本稿では触れなかったが日本においても課題となったいくつかのテーマについて簡潔に述べる。

まず、患者の受診について症状がある場合にかかりつけ医に電話で相談する（予約する）システムであるという点で、これはかかりつけ医制度（いわゆる General Practitioner 制度）であるオランダにおける一般的な医療機関の受診のプロセスと同様である（日本のようなフリーアクセスではない）。また、人口あたりの医師数や病床数など日本と異なり¹⁷⁾、基本的な医療保障制度・医療提供体制に違いがあることを留意されたい¹⁸⁾。オランダでは人口あたりの医師数は日本より多いものの病床数は少なく、入院は原則として症状が重い場合に限られている。

また、超過死亡について RIVM によるとオランダでは3月中旬から5月初旬にかけて超過死亡が観察された¹⁹⁾。本稿ではこれらの統計について引用し考察していないが、今後は日本でも超過死亡の評価の議論は必要であろう。ルッテ首相が会見などで集団免疫について時々ふれる場面があり、オランダはどちらかというと集団免疫の獲得に関心がある様子であった。実際に RIVM は長期的に抗体検査を実施して集団免疫について調査するプロジェクトを立ち上げている²⁰⁾。

日本と同様に、休業した企業や店舗への補償は行われていた。その一方で国民全員への現金給付などは行われていない。感染予防策としての休業要請などは補償について議論になりうるが、これが雇用維持などの経済対策の枠組みの中で行われるものか、感染防止対策の一環として公衆衛生上の観点から強

制的な休業を求めるために行われるものか、政府または自治体は立場を明確にする必要があるだろう。これに関して、オランダ政府が設立した感染対策チームは、感染拡大当初は基本的に感染症の専門家など医療関係者が中心であったが、第一波の収束後に社会、経済、政治学の専門家中心に変更された。このプロセスは日本と似ていると言える。さらに働き方について、オランダはワークシェアリング（一つの仕事を複数の労働者で分ける働き方）が進んでいるなど在宅勤務への切り替えがスムーズであった点は日本とは背景が異なる。エッセンシャルワーカー（医療、警察、食料品店、宅配、公共交通機関など）と呼ばれる在宅勤務ができない職種はどの国も一定数存在するが、労働環境の背景（例：現業の産業が占める割合や在宅勤務の普及割合など）が異なることも対策の国際的な理解では考慮が必要である。

最後に、オランダにおける新型コロナウイルス感染症の感染者数や死亡者数が他国と比べてどれくらいの規模であったかについて、本稿では厳密に定量的に言及していない。また、検査数に関する国際比較も言及していない。第一波が収束した2020年5月末までの感染者数、死亡者数はオランダの方が日本に比べ多かった^{3,8)}。しかしながら、無症状者を含めてどの集団に対してどのくらいの規模の検査を行ったか、死亡者の統計の取り方（疑い例も含めるか）、超過死亡など国によって数値の定義が異なる可能性があり、統計の国際的な標準化は今後の課題である。

VIII おわりに

新興感染症によるパンデミックは主に新型インフルエンザによるものが想定されてきたが、新型コロナウイルス感染症の世界的な大流行で現実のものとなった。その対策は各国でアプローチが大きく異なり、図らずも健康政策の自然実験の様相を呈したが、公衆衛生や医療資源とその背景となる社会の理念はそれぞれ多様であり、単一の最適解を見出すことは難しい。オランダにおける新型コロナウイルス感染症の対策（インテリジェント・ロックダウン）は多様性と寛容に裏打ちされたオランダの国民性を体現したものだったと言える。わが国も感染拡大を経験し多くの知見を得たが、その検証には他国との比較も必要である。健康危機管理に関する他国の政策の評価には、公衆衛生や医療資源の評価とともに、その背景にある社会の特徴を考慮することが重要である。

本稿の執筆に際して貴重なご意見を賜った杉本南さん（東京大学大学院医学系研究科社会予防疫学分野/ワーゲニンゲン大学）に深謝いたします。著者のオランダ・エラスムス大学医療センターでの研究においては、文部科学省による「トビタテ！留学JAPAN日本代表プログラム（S171N126010017）」（2017年8月-2018年7月）および「日本学術振興会振興会海外特別研究員（201960143）」（2019年4月-2021年3月）により支援を受けました。

本稿について開示すべき COI 状態はない。

（	受付	2020. 8.11
	採用	2020.10.22
J-STAGE	早期公開	2021. 1.28

文 献

- World Health Organization. WHO Director-General's opening remarks at the media briefing on COVID-19 - 11 March 2020. 2020. <https://www.who.int/dg/speeches/detail/who-director-general-s-opening-remarks-at-the-media-briefing-on-covid-19---11-march-2020> (2020年7月31日アクセス可能).
- 田中宏和. 蘭方見聞録. 日本公衆衛生雑誌 2019; 66: 778.
- Rijksinstituut voor Volksgezondheid en Milieu. Current information about COVID-19 (novel coronavirus). 2020. <https://www.rivm.nl/en/novel-coronavirus-covid-19/current-information> (2020年7月31日アクセス可能).
- 在オランダ日本国大使館. 新型コロナウイルスについて. 2020. <https://www.anzen.mofa.go.jp/od/ryojiMailDetail.html?keyCd=77887> (2020年7月31日アクセス可能).
- Dutch News. Coronavirus: why are there so many cases in Noord-Brabant?. 2020. <https://www.dutchnews.nl/news/2020/03/coronavirus-why-are-there-so-many-cases-in-noord-brabant/> (2020年10月2日アクセス可能).
- 在オランダ日本国大使館. オランダで初めての新型コロナウイルス感染者の確認. 2020. <https://www.nl.emb-japan.go.jp/files/100008524.pdf> (2020年7月31日アクセス可能).
- 外務省. オランダ王国(Kingdom of the Netherlands)基礎データ. 2019. <https://www.mofa.go.jp/mofaj/area/netherlands/data.html> (2020年7月31日アクセス可能).
- 厚生労働省. 新型コロナウイルス感染症について国内の発生状況など. 2020. https://www.mhlw.go.jp/stf/covid-19/kokunainohasseijoukyou.html#h2_1 (2020年7月31日アクセス可能).
- ロイター通信. つい, くせで...握手自粛宣言のオランダ首相が直後にやらかす. 2020. <https://www.reuters.com/video/watch/idOWjpvC54JRDAW-VO3RISPU5415NAGBAE> (2020年7月31日アクセス可能).
- Rijksoverheid. TV-toespraak van minister-president Mark Rutte. 2020. <https://www.rijksoverheid.nl/documenten/toespraken/2020/03/16/tv-toespraak-van-minister-president-mark-rutte> (2020年7月31日アクセス可能).
- NU. Minister Bruins zakt in elkaar tijdens debat, treedt dag later af. 2020. <https://www.nu.nl/279690/video/minister-bruins-zakt-in-elkaar-tijdens-debat-treedt-dag-later-af.html> (2020年7月31日アクセス可能).
- Rijksinstituut voor Volksgezondheid en Milieu. COVID-19 (novel coronavirus). 2020. <https://www.rivm.nl/en/novel-coronavirus-covid-19> (2020年7月31日アクセス可能).
- Reuters. Mink infected two humans with coronavirus: Dutch government. 2020. <https://www.reuters.com/article/us-health-coronavirus-netherlands-mink/mink-infected-two-humans-with-coronavirus-dutch-government-idUSKBN23112K> (2020年7月31日アクセス可能).
- Rijksinstituut voor Volksgezondheid en Milieu. About one out of every hundred people test positive for COVID-19 in GGD test lanes. 2020. <https://www.rivm.nl/en/news/about-one-out-of-every-hundred-people-test-positive-for-covid-19-in-ggd-test-lanes> (2020年7月31日アクセス可能).
- Rijksinstituut voor Volksgezondheid en Milieu. Number of COVID-19 infections is increasing. 2020. <https://www.rivm.nl/en/news/number-of-covid-19-infections-is-increasing> (2020年7月31日アクセス可能).
- Rijksoverheid. Dashboard coronavirus. 2020. <https://coronadashboard.rijksoverheid.nl/> (2020年7月31日アクセス可能).
- Organisation for Economic Cooperation and Development. Health at a Glance 2019 OECD Indicators. 2019. <https://www.oecd-ilibrary.org/sites/4dd50c09-en/index.html?itemId=/content/publication/4dd50c09-en> (2020年7月31日アクセス可能).
- 松田晋哉. 欧州医療制度改革から何を学ぶか 超高齢社会日本への示唆. 東京. 勁草書房. 2017; 101-127.
- Rijksinstituut voor Volksgezondheid en Milieu. Mortality still significantly elevated between 30 April and 6 May, but much lower than in previous weeks. 2020. <https://www.rivm.nl/en/news/mortality-still-significantly-elevated-between-30-april-and-6-may-but-much-lower-than-in> (2020年10月5日アクセス可能).
- Rijksinstituut voor Volksgezondheid en Milieu. RIVM launches study on coronavirus herd immunity. 2020. <https://www.rivm.nl/en/news/rivm-launches-study-on-coronavirus-herd-immunity> (2020年7月31日アクセス可能).